

# 歴史的仮名遣い一覧と 現代仮名遣いに直すときのルール（練習問題）

## 歴史的仮名遣（れきしてきかなづかい）とは

古語（こご・昔使われていた言葉で、現代では使われていない言葉のこと）の読み方や書き方は、現代の読み方や書き方と違う部分があるんだ。

それはなぜかというと、時代が進むとともに、発音の仕方が変わっていったから。

例えば、現代では「思う」という言葉は「おもう」と発音するよね。

「思う」の歴史的仮名遣いは「思ふ」なんだけど、これ、ただそう書くだけではなくて、昔の人々は実際に発音するときも「おもふ」と発音していたんだ。

でも、時代が進むにつれて、人々の発音の仕方がだんだん「おもう」という発音の仕方になっていったんだよ。

現代でも、「超」という言葉は、ちゃんと発音すると「ちょう」だけれど、最近?では「超おもしろい」なんて言うとき、「ちょーおもしろい」なんていうようにザックリ発音したりするよね。こうやって、時代とともに言葉は変化していくものだよ。

「を」と「お」も、昔は「を」を使う言葉と「お」を使う言葉では、ちゃんと発音を変えていたんだ。

例えば、「をとこ（男）」と「おもしろし（面白い）」では「を（wo）」と「お(o)」の違いがあるので、それぞれちゃんと発音を変えていたんだよ。

でも、現代ではどちらも「おとこ」「おもしろい」というように、どちらも「お(o)」を同じように発音するね。

ちなみに、「水を飲む」のように、助詞で使う「を（wo）」は現代でも「お（o）」とは発音をちゃんと変えているね。

つまり、昔は本当にそうやって発音していたし、書いていたんだけど、時代とともに実際の発音だけ変わってしまって、それだと変だから発音と同じ書き方に直したのが現代仮名遣いということだね。



## 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのルール

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときには、8つのルールがあるよ。

### 1. 「ゐ・ゑ・を」は→「い・え・お」に直す

現代のひらがなは、「わ行」は「わいうえを」になっていて、ひらがなの種類としては全部で46文字が使われているよね。

わ行を読むときは、「wa・ i・ u・ e・ wo」と発音するよね。

でも、昔の日本では、「わ行」は「わゐうゑを」になっていて、ひらがなの種類は今よりも2文字多い48文字だったんだ。

多い2文字が、「ゐ」と「ゑ」ということだね。

昔は、わ行を読む時は「wa・ wi・ u・ we・ wo」というように、「い・う」とは区別して発音していたんだ。

この「わゐうゑを」を、現代では「ゐ」は「い」にして、「ゑ」は「え」にしているんだね。

だから、歴史的仮名遣いの「ゐ・ゑ・を」はそのまま「い・え・お」に直すよ。

でもここで例外があるので注意。

助詞として使われている「を」はそのままにするんだ。

「こゑを（声を）」を例に考えてみるよ。

「こゑ」の「ゑ」は「え」にそのまま直せばOK。

でも、「を」は単語として使われているのではなく、「○○を」というように「助詞」として使われているよね。

だから、この場合は「を」は直さずにそのままがいいんだ。

「こゑを」は「こえを」と直すことになるんだね。



## 2. 「ぢ・づ」は→「じ・ず」に直す

## 3. 「む」は→「ん」に直す

## 4. 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は →「わ・い・う・え・お（わ行）」に直す

「語頭」というのは、単語の初めの部分のこと。  
たとえば、「はし（箸）」の「は」は単語の初めの部分なのでそのままにする。  
単語の初めにない「は・ひ・ふ・へ・ほ」は直さなければいけないということだね。  
語頭ではない、というのはつまり「2文字目よりもあと」とかんがえると分かりやすいね。

でも、ここで例外があるよ。

1. たとえ単語の初めになくても、他の単語にくっついて「複合語」になっている場合は、やっぱりそのままがいいんだ。

※複合語とは・・もともと独立している単語が二つ以上くっついて、新しいひとつの単語として意味などをもつようになったもの。

【例】

- ・「日」が「朝」について複合語になった「朝日」はそのまま「あさひ」
- ・「降る」が「雨」について複合語になった「雨降り」はそのまま「あめふり」

2. 助詞の「を」はそのままにするのと一緒に、助詞の「は」と「へ」はそのままにするよ。

【例】

- ・しはすは（師走は）→「しわす（師走）」という単語と助詞の「は」なので、「しわすは」になる。

## 5. 「くわ・ぐわ」は→「か・が」に直す



## 6. ア段＋う（ふ）→オ段＋う

ア段の文字と「う」または「ふ」がくっついている時は、ア段をオ段に変えて、「う」をくっつけるんだ。

【例】

「やうす（様子）」は、ア段である「や」と「う」がくっついているよね。  
なので、「や（ア段）」を「よ（オ段）」に直して、「う」をくっつけるよ。  
「やうす」は「ようす（様子）」になるんだ。

## 7. イ段＋う（ふ）→イ段＋ゆ＋う

イ段の文字と「う」または「ふ」がくっついている時は、イ段の文字はそのまま、「う」または「ふ」を小さい「ゆ」と「う」に変えるんだ。

【例】

「ちう（宙）」は「ち（イ段）」と「う」がくっついているよね。  
なので、「ち」はそのまま、「う」を「ゆ」と「う」に変えて、「ちゆう（宙）」になるんだ。

## 8. エ段＋う（ふ）→イ段＋よ＋う

エ段の文字と「う」または「ふ」がくっついている時は、エ段の文字をイ段に変えて、「う」または「ふ」は小さい「よ」と「う」に変えるんだ。

【例】

「けふ（今日）」は「け（エ段）」と「ふ」がくっついているよね。  
なので、「け（エ段）」は「き（イ段）」に直して、「よ」と「う」をくっつけるよ。  
「けふ」は「きょう（今日）」になるんだ。



## 歴史的仮名遣いと現代仮名遣い一覧

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したものを一覧にまとめたよ。

### 1. 「ゐ・ゑ・を」 → 「い・え・お」

ゐたり	いたり
ゐど	いど(井戸)
こゑ	こえ(声)
をかしげ	おかしげ(かわいらしいという意味)
をとこ	おとこ(男)
をとめ	おとめ(乙女)

### 2. 「ぢ・づ」 → 「じ・ず」

あづまぢ	あずまじ(京都から東国へ行く道のこと)
ぢしん	じしん(地震)
ふぢ	ふじ(藤)
いづれ	いずれ
かはづ	かわず(蛙のこと)
しづか	しずか(静か)
はづかし	はずかし(すばらしいという意味)
みづ	みず(水)
よろづ	よろず(色々なこと)

### 3. 「む」 → 「ん」

射む	射ん(矢を射ようという意味)
かむなづき	かなづき(神無月。10月のこと)
戦はむ	戦わん(戦おうという意味)※「は」→「わ」も直すよ。
なむ	なん(係りの言葉。係り結び「ける」で結ぶ。)
やむごとなき	やんごとなき(高貴な身分のこと)



4. 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」  
→ 「わ・い・う・え・お（わ行）」

合はせる	合わせる
あはれ	あわれ(趣があるという意味)
いはく	いわく(「おっしゃった」という意味)
おはす	おわす(いらっしゃる」という意味)
おそはるる	おそわるる(襲われるという意味)
しはす	しわす(師走。12月のこと)
すなはち	すなわち(すぐにという意味)
つはもの	つわもの(兵)
言ひける	言いける
思ひて	思いて
使ひ	使い
言ふ	言う
思ふ	思う
ゆふぐれ	ゆうぐれ(夕暮れ)
思へ	思え
かへす	かえす(返す)
まへ	まえ(前)
いとほし	いとおし(かわいそうだという意味)
いほり	いおり(庵) 小さい簡単な家のことで、草などで屋根をふいた小屋のようなイメージの建物のこと
おほかた	おほかた(「だいたい」という意味。おほかた・・・「ない」という否定の場合は、「全く」という意味)
かほ	かお(顔)
なほ	なお(やはりという意味)
にほふ	におう(輝いて美しいという意味)



### 5. 「くわ・ぐわ」 → 「か・が」

くわかく	かかく(過客。旅人のこと)
くわし	かし(菓子)
くわじ	かじ(火事)
ぐわまん	がまん(我慢)
にくわつ	にがつ(二月)

### 6. ア段+う(ふ) → オ段+う

あふぎ	おうぎ(扇)
おとなふ	おと <u>のう</u> (音を立てるという意味)
かうい	こうい(更衣。天皇のそばで働く女性の位のひとつ)
さうざうし	そうぞうし(「ものたりない」という意味)
さうぞく	そうぞく(装束。服装のこと)
けんぱふ	けん <u>ぼう</u> (憲法)
さぶらふ	さぶ <u>ろう</u> (お仕えする、…でございますという意味)
ちかう	ち <u>こう</u> (近う)
ちゆうじやう	ちゆうじ <u>ょう</u> (中将。役職の名前) 歴史的仮名遣いでは、「っ・や・ゆ・よ」のように現代仮名遣いで小さく書く字も普通の大ききで書く。
やうす	や <u>う</u> す
やうやう	や <u>う</u> や <u>う</u> (しだいにという意味)
やうやく	や <u>う</u> やく
まうす	ま <u>う</u> す
まうでけり	ま <u>う</u> でけり(詣でけり)

※「給(たまふ)」は現代仮名遣いに直すと「たまう」になるよ。

読む時は「たもう」でもよいけれど、表記(書くとき)は「たまう」なんだ。

テストでは基本的には「たまう」と直すのが正解になるよ。(「たもう」でも○になることはあるけれど、確実ではないとのことなので、出来れば担当の先生に確認してみよう。)

現代でも、「そういう」を発音するときには「そーゆー」と発音することがあるけど、表記は「そういう」でないとバツになるのと同じだよ。



## 7. イ段＋う（ふ）→イ段＋ゆ＋う

じふにひとへ	じゅうにひとえ(十二単)※「へ」→「え」も直すよ。
りふしやくじ	りゅうしゃくじ(立石寺というお寺の名前)
うつくしう	うつくしゅう(かわいいという意味)
ちう	ちゅう(宙)
ちうや	ちゅうや(昼夜)

## 8. エ段＋う（ふ）→イ段＋よ＋う

けふ	きょう(今日)
恋すてふ	恋すちょう(壬生忠見の和歌で使われていることば)
てふてふ	ちょうちょう(蝶々)
せうゆ	しょうゆ(醤油)
ばせうをう	ばしょうおう(芭蕉翁。松尾芭蕉のこと)※「を」→「お」も直すよ。
ほすてふ	ほすちょう(持統天皇の和歌で使われていることば)
れうり	りょうり(料理)





## 歴史的仮名遣い練習問題

次の歴史的仮名遣いで書かれた言葉や文を、現代仮名遣いに直しましょう。

問題のあとに解答があります。

### 問題

いづれ	
はらひて	
たのもしうをかしけれ	
あひたるけるを	
あづまぢ	
せうと	
ゐたり	
きりくひの	
いさかひ	
よはひ	
たふとみて	
くわかくにして	
きうり	
くはへて	
いみじうをかし	
かうむる	
づけい	
やむごとなき	
おほかた	
せうがふ	
をしへられし	
思ひくづをれて	
おのづから	
ゑしやく	



ころもほすてふ	
わづらひ	
をのこ	
据ゑる	
…やうにする	
いかがせむ	
かくほどなくうつろひて	
さふらふなり	
けふこえて	
をしう	

解答

いづれ	いずれ
はらひて	はらいて
たのもしうをかしけれ	たのもしゅうおかしけれ
あひたるけるを	あいたるけるを
あづまぢ	あずまじ
せうと	しょうと
みたり	いたり
きりくひの	きりくいの
いさかひ	いさかい
よはひ	よわい(齡)
たふとみて	とうとみて
くわかくにして	かかくにして(過客にして)
きうり	きゅうり(胡瓜)
くはへて	くわえて
いみじうをかし	いみじゅうおかし
かうむる	こうむる(被る)
づけい	ずけい(図形)
やむごとなき	やんごとなき
おほかた	おおかた
せうがふ	しょうごう(照合)
をしへられし	おしえられし



思ひくづをれて	思いくずおれて
おのづから	おのずから
ゑしゃく	えしゃく(会釈)
ころもほすてふ	ころもほすちよう(衣ほすちよう)
わづらひ	わづらい(患い)
をのこ	おのこ
据ゑる	据える
…やうにする	…ようにする
いかがせむ	いかがせん
かくほどなくうつろひて	かくほどなくうつろいて
さふらふなり	そうろうなり(候なり)
けふこえて	きょうこえて(今日こえて)
をしう	おしゅう(惜しゅう)

